

「原点と発展」の理念で 100年企業さらなる飛躍へ

高岡冷蔵株式会社
代表取締役社長

荻布 宗一 氏



1918年の創業で、100周年を迎えられました。

前身の高岡産業は、魚屋が軒を並べる高岡市中島町で、製氷と釘の製造販売の会社として始まりました。1936年に全国の漁港でもまだ珍しかった冷蔵倉庫を建設したのが、現在の基礎となっています。

市総合卸売市場の開設に合わせて1965年、市場内に工場を建設。1975年には急成長していたアイスクリームメーカーからの要請で、

北陸の中継拠点として富山工場を新設し、1989年には冷凍食品の普及に合わせてインターチェンジから近い小杉工場を建てました。まさに時代の変化に呼応して発展されてきました。

預かる品目も水産物から畜産物、加工食品と変化していますが、管理基準も大きく変わってきています。製造年月日や賞味期限はもちろん、製造ライン番号の管理や、冷蔵庫内の温度を0.1度単位で記

録することも求められています。

食の安全は全国一律、一定以上の品質水準を守るためには、設備の投資と維持管理が重要で、3工場とも同じ水準で管理できるよう取り組んでいます。

2007年に建て替えられた富山工場は画期的な設備だそうですね。

北陸新幹線が通ることになり、隣接地に移転するのを機に、それまでの1.5倍の能力に増強し、さらに、環境に配慮した自然冷媒「アンモニアCO₂」を使う冷蔵設備を全国で初めて導入しました。

また、富山工場と小杉工場はトラックと倉庫の間で荷を積み降ろしするスペースに外気や虫が入るのを防ぐ「ドックシェルター」を完備しています。昨年のような猛暑では、商品の品質維持にとっても役立っています。

—できることは自分たちで—

「原点と発展」を理念に掲げられています。

未来の発展を考える上で、歴史を踏まえて行動したいと思っています。取締役就任した時、経営陣の考えを社内みんなと共有して進んで行かなければならないと思って理念を考えました。さらに、社外へ向けても自分たちの仕事を知らせてもらうため、ホームページを作りました。

従業員の働く環境整備はどうされていますか。

寒い倉庫での肉体労働なので、男性の職場と考えていましたが、数年前に現場業務希望の女性が入社し、活躍しています。今は労働条件や求人でも男女の区別をなくしました。彼女は同期の男性社員を追い抜いています。事務部門は女性がリーダーシップを取っていますが、現場でも管理者に育って

欲しいと思っています。

また、若い人の活躍を評価するため年功序列を一部改め、査定制度を導入し、仕事に応じた報酬と昇格のチャンスを作りました。

一方で、運送業界でトラック運転手の休憩のルールが厳格化されたことで、到着を待つことが多くなり、残業が増えました。フレックス勤務など、対策を講じなくてはいけないと思っています。

社員教育はどうされていますか。

日本冷蔵倉庫協会が出しているマニフェストを元に、3工場が同じ水準を保てるように自社でルーティン化しています。

協会の研修には、社員を順次参加させ、さらに研修参加者が中心となって社内でもう一度勉強会を行い、学んだことを会社へ持ち帰っています。同業他社の人と話をする中で他社の良い点を知り、改善すべき点を考える機会にもなっています。

当社は昔から、できることは自分たちでやろうという社風で、外壁のペンキ塗りから、設備のメンテナンス、修理も自分たちでやります。倉庫管理や冷凍機を扱うための資格を全員が取得することを目指しています。

今後の展望を教えてください。

流通網の整備が進み、在庫を減らすため、製造現場から直送する商品が多くなりました。また業界

内では老朽化した設備の更新ができず、閉鎖する工場、会社が増えています。

ですが、まだまだ伸びしろがあると考えています。凍らせることができずにチルド輸送していたものが、技術の進歩によって冷凍冷蔵保存できるようになったり、猛暑だった昨年は、常温管理のものでも温度変化のない冷蔵倉庫に預けたいという依頼もありました。

また東日本大震災以降、リスク分散の観点から、災害の少ない富山県に商品をストックしたいという依頼もあります。さらに当社は3工場あることから、分散して預かるケースも出てきました。

日本海側の中継拠点として、また危機管理の観点からも、アピールの余地があると考えています。

—街の元気に氷彫刻を発売—
氷のクリスマツツリーが話題になりました。

昨年9月の当社100周年の祝賀会で、当社の仕事を見てもらうものはないかと考え、全テーブルに氷の彫刻を置き、自作したLEDでライトアップしました。とても美しく、皆さんに喜んでくれたことから、すぐにSNSで情報発信し、クリスマス向けに氷のツリーとリースを販売しました。

氷の彫刻は高価で、特別なイベントや展覧会でしかお目にかかれ

ませんが、当社のPRと多くの人に楽しんでもらいたいとの思いで、手頃な価格設定にしました。

百貨店のクリスマスイベントや飲食店、経済団体のクリスマス会などで使っていただき、子供たちが触ったり、お母さんたちが写真を撮ったりと大好評でした。

正月、バレンタインデーと続けて行きます。儲けにはなりません。高岡冷蔵のできる地域貢献として楽しい街づくりのお手伝いができれば嬉しいです。

座右の銘を伺います。

「人に限界はない。限界があるとすればそれは自分が決めることだ」。ある時聞いた言葉が心に残っていて、自分だけでなく社員にもどんな人にも当てはまります。

今の若い人は昔のように頭ごなしに言っても付いてきません。毎日3工場を回って、「もう一歩先を見ようよ」と明るく声を掛けるのが仕事です。目の前のことに積極的に取り組むことで、例え失敗しても次の改善に繋がり、限界値を伸ばすことができれば、その人の成長になると考えています。

略歴

1975(昭和50)年高岡市生まれ。2001年イワタニ東北(株)に研修入社し、3年の研修を経て荻布プロパン(株)入社。2006年に高岡冷蔵(株)へ入り、小杉工場責任者兼企画・管理・営業部長などを経て、2013年取締役、2015年常務取締役、2017年12月代表取締役に就任。現在、富山県冷蔵倉庫協会会長、北陸冷蔵倉庫協議会副会長。

会社概要

高岡冷蔵株式会社

創業：1918(大正7)年10月
所在地：高岡市下黒田777
資本金：4,800万円
事業内容：冷蔵倉庫業、製氷販売、売電事業
従業員数：22名(2019年1月現在)
売上高：4億1,600万円(2018年9月期)
事業所：市場工場、富山工場、小杉工場
URL：https://takaokareizo.co.jp/



氷の彫刻を飾って祝った100周年祝賀会(2018年9月23日)